

# 地域社会との信頼関係を築く ～情報公開と地域に根ざした取り組み～

社会福祉法人一視同仁会 常務理事  
特別養護老人ホーム花水木 施設長 遠藤 早苗

## 1. 施設および施設所在地域の紹介

社会福祉法人一視同仁会がある、宮城県石巻市の高齢者人口は2,498人、高齢化率は28.1%(平成25年11月現在)と、高齢者人口および高齢化率は増加傾向にある。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の甚大な影響が払拭できない状況にあり、大震災によって被災した高齢者の中には、癒えない心の傷や今後の生活に対する不安、体の変調などで悩んでいる方々も少なくない。これらのことから、石巻市高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画には、第8章／震災からの復旧・再生期における高齢者支援「本市においては震災からの復旧・再生期にあたることから、高齢者の方々に対しては平常時とは異なる支援を図ります。」<sup>1)</sup>と記されている。

当法人は平成10年に設立し、平成11年5月に在宅複合型施設花水木(写真1、2)として開所している。現在は、特別養護老人ホー

ム花水木(地域密着型介護老人福祉施設)に、ショートステイ花水木、花水木介護センター(老人デイサービスセンター、訪問介護、訪問入浴)、居宅介護支援センター花水木、石巻市河南包括支援センターを併設している。

他方、秋田県に平成26年春に完成予定の「複合福祉施設かぐら」を建設工事中である。この事業は、鉄筋コンクリート2階建ての建物内に、サービス付き高齢者向け住宅を核として、老人デイサービスセンター、訪問介護、居宅介護支援事業に、地域交流施設としてのフードコートやミニスーパーを併設し、地域住民に福祉サービスだけでなく、買い物弱者への支援と住民が気軽に立ち寄り交流することができる場の提供を目指すものである。

本稿では、地域社会との信頼関係を築くことをテーマとして、情報社会に必要と思われる社会福祉法人としての情報公開と情報提供、職員の専門性を活かした社会貢献の取り



写真1：花水木外観 南西側



写真2：花水木外観 東側

組み、施設と地域の連携やネットワーク構築にかかる取り組みについて報告する。

## 2. 当法人経営理念『地域になくはない施設』の考え方と関連する取り組みの紹介

10年ほど前、当施設は行政職員の一人から『花水木なくして河南(旧河南町)の福祉はない。』と激励の言葉をいただいた。筆者はこの言葉から、花水木は福祉施設としての使命を十分に理解し、行動しているのかを改めて考える機会となった。ここでは、施設とは、設備の整った建物と専門知識や技術を持った職員の二つをどのような形で地域福祉に資することができるのかを模索し、取り組んできた当施設の事例を紹介する。

### 2-1 みやぎ教育応援団へ登録

現在、中央教育審議会答申で提示されている「生きる力」の育成として、「社会で生きて働く力」と「生涯にわたって学び続ける力」の育成が重要とされている。そのために、中央教育審議会は「学校、家庭、地域の連携、とりわけ家庭、地域の教育力の充実が必要である」とも述べている。子どもたちに「生きる力」をはぐくむ教育をするために、地域の福祉施設として何をすべきであろうか。受験社会に対応するための教育を受ける子どもたちが、将来、競争社会で生きていくための人間力を養うために必要な教育に、社会福祉法人として関わることはできないだろうかと考えた。

そこで、当施設では平成23年12月に、みやぎ教育応援団へ登録し、地域の教育力の充実に貢献することに努力を重ねている。登録後には、職員の障がい者に対する理解を得て、特別支援学校から知的障がい者の実習を受け入れ、ヘルパー2級を取得し、就職を希望す

る知的障がい者を介護員として採用している。

### 2-2 高等学校の学校設定科目「地域貢献」授業(前期)を受け持つ

平成21年、近隣にある宮城県河南高等学校(現在の宮城県石巻北高等学校)の学校長から「高等学校と福祉施設が隣接している環境は宮城県内では珍しく、この環境を教育に活かしたい。生徒が実社会に身をおき、実践的学習をすることが重要と考えている。」と相談を受けた。学校長と検討を進め、総合学科の家庭科系列の生徒のうち、自由選択科目「地域貢献」受講者(3学年)を対象に、当施設内で授業を受け持つことになった。社会福祉法人の公益性からの無償提供である。

高校教員の経験を持つ管理栄養士を中心に、各サービス事業の主任が授業を担当する。生徒の受け入れにあたっては、実習生受入担当の事務職員(進学塾講師経験者)が、授業担当教員との打ち合わせを進め、学校側の指導目的と施設側の指示に基づいて、10回分の授業内容を検討し、実施計画書の作成を行う。地域貢献授業計画書にて、各回の実施内容・職員役割分担・注意事項を確認する。終了後は、地域貢献授業報告書にて実施内容・生徒の様子をまとめ、振り返りシートを活用して生徒の意見を聞く。

生徒の受け入れ人数は5名程度とし、注意事項として風邪症状などの感染予防と、要介護者の個人情報保護をお願いする。学校側は、学習状況を把握するために、顧問が巡回指導をすることと、インターンシップ(職場体験・就業体験)とボランティア等体験活動賠償責任保険に加入する。今年度は、女子2名と男子5名の生徒に対して、5月から9月まで毎週木曜日の1~2時限(施設時間は9

時15分から10時40分)、計10回の授業を行った。校内では、担当教員が、希望調査・計画立案と事前指導(2回)等の学習指導し、3回目の授業から施設内学習(表1)となる。

この取り組みの成果は、利用者が学生と過ごす時間を楽しんでいる様子が見られること。職員が高校の授業を受け持つという責任から専門職としてのモチベーションが上がっていること。学習した生徒が、現在は介護員(1名)として入職していることがあげられる。

### 3. 地域に必要とされる施設にむけた取り組みとしての情報公開

現代の特徴でもある情報社会の中で、介護サービスの情報を必要としている方々に、様々な情報を発信することは、社会福祉法人として重要な使命である。また、福祉施設の専門知識を地域福祉への支援として情報を発

信することも大切な行動と考えた。

#### 3-1 経営情報の情報公開

当法人が、社会福祉法人財務諸表の公表の義務化に先だって、経営情報をホームページに公開していることに特別な意味あるいは理由、意図はない。一法人一施設の地道な経営状況ではあるが、その数字の全てに意味がある。収入の数字には、稼働率維持への努力があり、支出の数字には人件費率や経費比率の確認を怠らない、施設の職員の努力が表れている。また、各サービス事業によってそれぞれの数字に特長がある。介護保険制度改定の度に的確な対応と工夫をしている数字である。今日、国民は社会福祉法人の経営の透明性を求めているとのことであるが、ホームページに福祉施設としての堅実な姿勢を見せる事に何ら抵抗はなかった。

表1：平成25年度 地域貢献「現場実習」実施計画書(前期)

実施日	サービス事業	担当職員	内 容
5月24日		実習受入担当(事務職員) 生活相談員	オリエンテーション 施設見学・福祉の資格説明
5月31日	特別養護老人ホーム	主任 介護員が補助	特養の事業概要説明。食堂ホールにて利用者と生徒が協力してミニトマトと日々草をプランターに植えることを体験(苗は学校より)
6月7日	ショートステイ	主任 介護員が補助	ショートの事業内容説明 車椅子の清掃、操作、試乗体験
6月14日	特別養護老人ホーム	管理栄養士 介護員が補助	栄養士について。介護食器とトロミ剤の説明 食堂ホールにて利用者とホットケーキ作りの体験(材料費は学校より)
6月28日	ショートステイ	管理栄養士 介護員が補助	調理師について。厨房見学と厨房器具の説明 食堂ホールにて利用者とじゃがいも餅作りの体験(材料費は学校より)
7月5日	デイサービス	理学療法士	理学療法士について。機能訓練とマッサージ説明。 デイホールにて利用者と機能訓練体験
7月12日	デイサービス	ボランティア受入担当	コミュニケーションと注意点を説明。デイホールにて利用者とレクリエーションの体験
7月19日	訪問入浴	主任	訪問入浴の事業概要説明。器具説明。 在宅にて訪問入浴を見学
7月24日	特別養護老人ホーム	主任	施設内入浴設備説明。特浴への入浴体験
9月13日	デイサービス	ボランティア受入担当	生徒が利用者に地域の伝統芸能「虎舞」を披露。 現場学習反省会とまとめ

### 3-2 地域住民の福祉向上にかかる情報提供

福祉施設として、利用者のみならず、その家族や地域住民も健康で生き生きと生活することへの支援に資する情報提供を行いたいと考えて、その方法を検討した。

平成16年から施設広報誌「花水木」を発行した。現在は、理学療法士による予防運動の紹介や管理栄養士の栄養指導を含めた献立、ボランティアの活動状況などの施設情報を掲載し、利用者や家族、ボランティア活動者、市役所、病院、郵便局、道の駅、コンビニエンスストア、理美容店など地域に毎月約500枚(A4版両面)を配布している。

ホームページ活用には、理学療法士ワンポイントアドバイスをバックナンバーも含め、毎月掲載している。ホームページを活用した成果の1つには、県外からもボランティア活動の申し込みが入るようになったことである。

## 4. 地域住民との連携やネットワーク構築にかかる取り組みの背景とねらい、主要内容

当施設では、平成16年からボランティアコーディネーターを中心として、『職員の不得意なことは、得意な方にお願ひしよう。』をモットーに、利用者が楽しい時間を過ごしたり、趣味の時間が充実できるように、ボランティアの受入を開始した。地域と施設の連携にはさまざまな面で持続的に関わられるような取り組みを実施する必要があると考えている。

### 4-1 地域住民「花水木非常時協力員」

「花水木非常時協力員」(写真3)とは、平成19年に、連絡の受信後4分以内で「花水木」に駆けつける事ができる地域住民男女10人

で結成したボランティア団体である。その目的は、「花水木」の災害時に、利用者を安全かつ早急に避難場所に避難誘導支援をする事である。協力員は、施設長および町内会長等で協議して選任し、本人より承諾を得た場合に、理事長が委嘱状を交付し承諾書を受け取る。

活動内容は、年2回の施設内防災訓練への参加協力と助言、災害時における避難誘導支援である。その際には、一般の人々との識別のために、あらかじめ貸与している帽子(蛍光色にて「花水木」と刺繍入り)を着用して駆け付けることにしている。協力員は、訓練後に行う反省会にて、職員への指導を含んだ助言をしている。

東日本大震災当日、協力員数名が、余震が続き、津波や浸水が迫る非常時に、自分の家族の安全確保だけでなく、「花水木」の利用者と職員の安全も考え、自ら施設に駆けつけてくれている。今後の課題は協力員の増員である。

### 4-2 ボランティアに支えられる実践例

当施設では、地域住民が生涯学習などから得た、様々な特技や得意分野を当施設での活動に活かし、そのボランティア活動により利用者が心豊かな時間を過ごさせている。平成18年から民謡指導ボランティアで訪問中の



写真3：花水木非常時協力員

男性(右画像)は、「自分も年をとってきたが、施設を訪問することは生きがい。」(河北新報、平成25年12月19日掲載)<sup>2</sup>と話す。施設を地域住民の発表の場として開放することは、利用者だけでなくボランティア活動者の生きがいをも支援すると考えられる。施設内には絵画や書などの地域住民の作品も展示し、その作品は利用者や職員を慰め楽しませている。平成24年度受入回数155回・総人数247人である。

実践例には以下のものがある。

- ①花水木後援会「ことぶき会」
- ②花水木非常時協力員
- ③年末大掃除、花壇手入れ、餅つき
- ④民謡指導、書道指導  
ピアノ・大正琴・ギター等楽器演奏  
演歌、合唱、日本舞踊、詩吟などの披露
- ⑤大学、高等学校、小・中学校、保育園の慰問

#### 4-3 職員の地域貢献

当法人では、建物だけでなく、職員も地域の社会的資源として、地域活動に積極的に参加している。職員の地域への活動内容には以下のものがある。

- ①自主防災会の保健福祉部として防災訓練参加
- ②全国交通安全運動期間に交通安全街頭指導参加
- ③地域イベント等への参加や、町内会・敬老会・婦人部などへの講演活動
- ④売上の一部がホスピス活動支援へ寄付される自動販売機「夢の貯金箱」を施設内設置
- ⑤厨房の廃食用油を提供し、地域環境事業に協賛



石巻かほく新聞記事 平成25年12月19日

#### ⑥みやぎ教育応援団に登録

### 5. 今後の展望および想い

現在、石巻市高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画を基に、石巻市と石巻商工会議所の官民共同で、平成27年完成予定の復興公営住宅7階建の計画が進められている。当法人は、そこに居住する人々への生活支援施設として、2階フロアーにデイサービス事業や居宅介護支援事業等を開設し、被災者の復興支援に携わる予定である。筆者は、当法人経営理念にある『地域になくてはならない施設』として被災した高齢者の生活支援のみならず、壊滅した市街地の地域まちづくりの実現を目指す施設でありたいと考えている。

#### 引用資料

1. 石巻市高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画、石巻市、平成25年3月
2. 河北新報、石巻かほく、平成25年12月19日掲載